

販売名	リン酸水素カルシウム水和物「ヨシダ」		製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日本薬局方 リン酸水素カルシウム水和物				
洋名	Dibasic Calcium Phosphate Hydrate		発売年月	2008年7月	
一般名	リン酸水素カルシウム水和物		薬価収載年月	2008年7月	
剤形	散剤		薬価	10g 13.80	健保適用
規制区分	普通薬 局方		日本標準商品分類番号	873219	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード		3219001X1014	YJコード	3219001X1120	
構造式	分子式: $\text{CaHPO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ 分子量: 172.09		性状	本剤は白色の結晶性の粉末である。 水又はエタノール(99.5)にほとんど溶けない。 希塩酸又は希硝酸に溶ける。	
組成	本剤 1g 中、日局リン酸水素カルシウム水和物 1g を含む。				
効能・効果	下記代謝性骨疾患におけるカルシウム補給 くる病・骨粗鬆症・骨軟化症 妊娠・授乳期におけるカルシウム補給				
用法・用量	リン酸水素カルシウム水和物として、通常成人1日3gを3回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。				
使用上の注意	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>1.高カルシウム血症の患者〔症状を悪化させることがある。〕</p> <p>2.腎結石のある患者〔症状を悪化させることがある。〕</p> <p>3.重篤な腎不全のある患者〔カルシウム排泄低下により、高カルシウム血症があらわれるおそれがある。〕</p> </div> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)</p> <p>(1)活性型ビタミンD製剤を服用している患者〔高カルシウム血症があらわれやすい〕</p> <p>(2)強心配糖体の投与を受けている患者〔強心配糖体の作用を増強するおそれがある。〕</p> <p>(3)高カルシウム血症があらわれやすい病態の患者</p> <p>2. 重要な基本的注意</p> <p>長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中または尿中カルシウムを検査することが望ましい。また、高カルシウム血症があらわれた場合には投与を中止すること</p>				

使用上の注意	3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)		
	薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
	テトラサイクリン系抗生物質	テトラサイクリン系の抗生物質の吸収を阻害することがある。同時に服用させないこと。	テトラサイクリン系抗生物質はカルシウムイオンと消化管でキレートを形成し、吸収が阻害されることがある。
	4. 副作用 本剤は使用調査成績等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。		
	長期投与 高カルシウム血症、結石症(頻度不明)		
	5. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。		
薬物動態	妊娠、授乳、骨カルシウム沈着減少時などカルシウムとリン酸塩の要求が増すときに、カルシウムとリン酸塩の補給源として一般に用いられる。胃腸から吸収される程度は、グルコン酸又は乳酸塩に劣るといわれる。カルシウムのみが必要なときはグルコン酸カルシウムや乳酸カルシウムの方が優れている。(体内薬物動態)カルシウムは、摂取量の約 1/3 が小腸から吸収される。吸収は年齢とともに減少し、体内でカルシウムが不足した時、又は食物中のカルシウムが不足した時に効果は上昇する。又、ビタミンDの活性代謝産物である 1,25-dihydroxycholecalciferol により吸収は増加する。カルシウムは、汗、胆汁、腓液、唾液、尿、ふん便、母乳中に排泄され、毎日 400 mg前後が尿中に排泄される。その量はナトリウムイオンの排泄に直接関与し、食物中のマグネシウムの増加によって上昇する。カルシウムの尿中への排泄は、リン酸の摂取量が減少すると上昇する。		
取扱上の注意	貯法:密閉容器、室温保存 使用期限:ラベル等に記載		
包装単位	500g	文献請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10